ASAKUCHI 浅口市文化財 GUIDEMAP ガイドマップ

1．両面薬師堂 （金光・鴨方）

遙照山の山頂、矢掛町との境界にあり、慈覚大師の開山と伝えられている。本尊の石仏が南面は薬師如来、北面は釈迦如来という２仏１体の珍しい像であるため、「両面薬師」と呼ばれ親しまれている。

2．谷田来右衛門・弥五右衛門墓碑 （金光）

（市指定有形文化財）

岡山藩主の池田光政は、儒教に基づく政治を行い、葬祭においても儒教の形式で行わせた。上竹村に村代官として居住した谷田氏はこの地で没したが、親子で儒教形式の墓を残した。旧浅口郡内に儒葬墓は残っているが、その先頭にたつ谷田代官の墓は藩の規定により忠実な墓を造っているため、その時代を象徴する貴重な資料である。

3．地蔵菩薩坐像（泉勝院） （金光）

（市指定有形文化財）

桧材寄木造で像の高さ約50cm。法衣を通肩に着し、左足を前にくずして坐した半跏像である。県下では南北朝頃の仏像は数少なく、また奈良を中心に活躍した清氏の仏像としては初めてで、清氏の研究資料としても貴重である。

（金光歴史民俗資料館　所蔵）

4．五鈷杵（ごこしょ） （金光）

（市指定有形文化財）

上竹の西の坊遺跡の土坑墓から出土した密教法具。長さ8.9cm、重さ29.3ｇの小形品である。銅製で全体を緑青が覆っているものの保存状態は良好で、製作時期は室町時代後半と考えられる。実際の修法に用いるには小形すぎるので墓への副葬品として製作されたと思われる。

5．金光学園中学高等学校記念講堂 （金光）

（国登録有形文化財）

1904年（明治37）、現金光教本部の一角にあった旧金光中学校校地に建てられた擬洋風建築の講堂で、1956年（昭和31）に現在地に移転した。木造平屋建で屋根には半円形窓のドーマーを設け、軒先には雲形の持送で装飾する。内部は一室の講堂で、天井は二重に折上げた格天井である。設計は、岡山県工師の江川三郎八氏とみられる。浅口地域の明治期の学校建築の様式や技術を知る上で貴重である。

6．定金家住宅主屋 （金光）

（国登録有形文化財）

1917年（大正６）頃建築。木造２階建で、東半が洋館、西半が和風住宅の木造２階建住宅。洋館は正面中央の玄関を境に左右対称とし、スティックスタイル風の外観で、縦長窓の上を梁形ペディメントを飾り、妻飾はハンマービームトラスを模す。調和のとれた意匠をもつ洋風建築である。

7．金光教徒社 （金光）

（国登録有形文化財）

大谷門前町の一角に位置し、３棟並列して建設された。３棟のうち西棟は最も古く、1916年（大正５）に新開社の社屋として建てられた。東棟は1921年（大正10）の建設で、中央に入口を配する左右対称の外観が特徴。軒線中央部を僅かに切り上げ、ペディメント上に見せる洋風意匠の事務所建築である。中央棟の外壁は、モルタルを塗装して石積に見せる特異な外観で、1927年（昭和２）の建設である。

8．金光教教学研究所 （金光）

（国登録有形文化財）

1930年（昭和５）に金光町大谷の木綿崎山丘陵に迎賓施設として３棟が建設された。客殿は木造平屋建で、重い屋根を支えるために木組み（トラス）構造が採用される。客殿付属舎は木造平屋建で、客殿と一体をなす上質なつくりで、客殿の玄関を兼ねる。洋館は木造二階建で、西南隅に塔屋を設け、正面に玄関ポーチを配置する。客殿とは相対し、和洋館併設のつくりとなる。３棟は、渡り廊下を介してつながっており、格調高い面構えを形づくっている。

9．阿弥陀如来像（大光院） （金光）

（市指定有形文化財）

桧材寄木彫眼造で像の高さ約90cm、座の幅約72cm、奥行約60cm、藤原時代中期から後期の特徴ある作風を残している。像は1790年（寛政２）の修繕により、全面上塗りされ創作時の容姿を失っていたが、京都の仏師佐川定慶が平成４年から１年半をかけて古色修繕を施し、創作時の風格を再現している。

10．寂光院庭園（じゃっこういん） （金光）

（市指定名勝）

近郷に稀な深山幽谷の趣があり、本堂前の回遊式庭園は中世の様式を残している。また、周囲の景観が備前関谷によく似ているところから「小関谷（こせきだに）」と名づけられている。

11．丸本酒造 （鴨方）

（国登録有形文化財）

竹林寺山南麓に位置し、市境（浅口・矢掛）の地蔵峠越えの峠下集落には、美しい棚田風景が広がり、本庄川と平行に走る矢掛宿への街道沿いの西側に建つ。黒漆喰塗壁など往時の造形が見られるのが特徴で、明治期から昭和初期築造の主屋や酒蔵が一体となって酒醸造場の風情を構成し今に伝えている。

12．石造地蔵菩薩立像（ゆるぎ堂所在） （鴨方）

（岡山県指定重要文化財）

本庄木ノ元のゆるぎ堂と称する覆堂内に立つ高さ210.5cmの石仏。花崗岩による方柱状の一石を用いて、これをそのまま丸彫りの地蔵石仏に成形したもので、右手で錫杖を左手に宝珠を持ったいわゆる延命地蔵といわれる地蔵尊像である。刻文から1332年（正慶元）の作と確証でき、この時代の丸彫石仏は県下に２例あるのみで大変珍しい。

13．八幡神社のおわけ祭り （鴨方）

（市指定無形民俗文化財）

鴨方町小坂東に鎮座する。元は八幡宮と称し、小坂東・小坂西・深田村の氏神であった。八幡神社の大祭に先立ち、10月５日深夜に執行されるのがおわけ祭りである。神功皇后が三韓征伐の帰途、寄島に立ち寄り、小坂の郷から従軍して手柄をたてた３兵士との別れの儀式を催した、という故事に基づく。長さ６間の青竹（おはっけ）を囲むように円錐状に稲藁で蔽った「おわけ様」の前に小学生３人の当子・当親・寄当総代が着座し、暗闇の中で厳かに行われる。

14．龍宮門（旧正伝寺山門） （鴨方）

（市指定有形文化財）

長川寺の南にあった浄土真宗本願寺派の寺院で、1571年の創建。1897年（明治30）廃寺となったが、門はそのまま保存され、鴨方高等学校がこの地にあった時期には正門として親しまれていた。一間一戸の門で下部に厚い土壁を塗り上げた竜宮造りの珍しい門である。桃山時代の面影をしのばす建築様式ではあるが、構成や表現の技術が不十分であるため、江戸時代後期の作と推定される。

15．細川通董墓所（長川寺） （鴨方）

（市指定史跡）

戦国時代末期の武将。長川寺の中興開基。墓碑は1715年（正徳５）五代の後裔細川元純の建立と伝えられている。

通董は、1535年（天文４）伊予国松山城に生まれ、毛利氏の旗下に属していたが、1559年（永禄２）25歳のときに川之江城から移った。青佐山城７年間、竜王山城９年間拠城とし、1575年（天正３）に鴨山城に移り1587年（天正15）の没年までこの城に拠ったという。

16．西山拙斎碑（せっさい） （鴨方）

（市指定史跡）

江戸中期の儒者。名は正、号は拙斎。1735年（享保20）鴨方村に医者惣玄の子として生まれ、16歳のときに上坂し、医学や儒学を学んだ。39歳の時郷里へ帰り私塾欽塾を開き子弟の教育に専念した。1790年（寛政２）柴野栗山を通じて朱子学を正学とする学制の統一を説き、松平定信が「寛政異学の禁」を出した。

鴨神社西の墓地にある2.6mの碑は、撰文が柴野栗山、題額が頼春水、書は頼香平、建碑の斡旋は菅茶山で「三絶の碑」と称する。

17．宮の石橋 （鴨方）

鴨神社の随身門下にある石橋で、「鴨方に過ぎたるものが三つある詣斎、柴我、宮の石橋」と謳われた鴨方三奇の一つ。長い板状の石６枚を反らせて整えた太鼓橋で、鴨方の町筋からの参道を上ってくる参拝者のために造られたものであろう。石橋がまたぐ小道付近の小字名が「鴨之下通」であることから、この小道がかつての古道であり、本来の参拝口はこの石橋辺りにあったことを思わせる。

18．旧高戸家住宅 （鴨方）

（岡山県指定重要文化財）

江戸時代、岡山本藩との間を結ぶ鴨方往来は、岡山城下の栄町から笠岡旧小田県庁に至る長い街道であった。

旧高戸家住宅は、鴨方藩の庄屋を世襲し、油商等を営んだ家で、藩主の宿泊所や文化人の交流の場として使われた由緒ある町家である。建築年代は、1687年（貞享４）に修理をしたという棟札から、300年以上経ており、県下に残る江戸前期の最も貴重な町家といえる。

19．鴨方藩陣屋跡 （鴨方）

鴨方藩は、岡山藩の支藩として、1672年（寛文12）備中浅口、窪屋、小田３郡の地２万5000石を与えられ、新田藩として成立した。初代藩主は、池田光政の次子政言である。鴨方藩陣屋は、鴨方藩所領支配の現地の拠点（政務の場）であったが、鴨方藩主は岡山天神山にある鴨方藩邸で生活しており、簡素なものであった。現在は、陣屋の石垣、井戸がわずかに残っている。

（県立鴨方高等学校　所蔵）

20．欽塾塾生肄業程課（いぎょうていか） （鴨方）

（市指定有形文化財）

西山拙斎が開いた私塾欽塾における塾生の一日の日課や教育方針を示した勉学規定。

この程課は、朱子の「白鹿洞書院掲示」をよくかみ砕き、かつ言行をつつしみ正すの欽の内容をよく示しており、拙斎の学問観の実践の展開をうかがい知ることができる。

（個人蔵）

21．華月橋上の拙斎（かげつきょうじょう） （鴨方）

（市指定有形文化財）

西山拙斎の居宅至楽居の庭内の蓮池に渡してある華月橋上の拙斎を描いた田中紫我の作品。拙斎が鴨方へ帰り欽塾を開いた頃の作と推測され、至楽居の庭の様子がよくわかる絵であるとともに、当時の拙斎を偲ぶ唯一の絵である。「紫我描けば拙斎がそれを詠む」という拙斎と紫我の仲のよさを如実に伝える歴史資料的意味を持つ貴重なものである。

22．石造阿弥陀如来坐像 （鴨方）

（市指定有形文化財）

みどりケ丘団地の鐘鋳場（かねいば）公園南側のお堂に座る総高約150cmの石仏。昭和50年頃に団地の造成に伴い現在地に移転する。花崗岩の一石を用いて成形し、大仏座に座る。石仏の腰部分で上下二段に分割されていることから、地元では「腰折地蔵」と呼称される。右足を外にして組み、腹前で手を結ぶ。石仏右肩部の刻文から1369年（應安２）の作と確証できる。市内では、12の石造地蔵菩薩立像に次ぐ年代の文化財である。

23．阿藤伯海旧居（はくかい） （鴨方）

（市指定史跡）

1894年（明治27）六条院東相部生まれ。漢詩人。俗称を伯海、大簷と号す。矢掛中学校、第一高等学校を経て東京帝国大学哲学科に学び、更に京都帝国大学でも狩野直喜に師事して支那学を専攻、後に第一高等学校等で漢文学を指導した。特に伯海が大漢詩人として名を博したのは、絶筆となった「吉備公館址作」で、矢掛町東三成にある吉備大臣宮境内には高さ４mに及ぶ「吉備公館址」の五言排律の詩碑がそびえ立っている。

24．仏涅槃図（ぶつねはんず）（明王院） （鴨方）

（岡山県指定重要文化財）

縦188.8cm、横161.6cm、絹本著色。「六条院町誌」に兆殿司（室町時代の仏画僧　吉川明兆のこと）作の伝称と記している涅槃図。製作時期は、室町時代の中でも古いものと判断される。構図は全体的に緊密で中央の涅槃仏も比較的大きく扱っており、描線のすべては神経の行き届いた微妙な抑揚によって対象の真実をよく活写している。

25．四条原古墳群 （鴨方）

六条院南部にある四条原古墳群は、市内にある古墳の中でも特に形が整っており、密集している。中でも侍山塚は泉山東南麓の低い丘上にある２基の箱式石棺が並んだ古墳で、その南方にある奥の原のタンゴ山古墳とともに数少ない権力者の風格を残すものである。その他、上原塚、古寺跡１～４号墳、天神山塚、向ケ市塚、永広塚、軽部荒神塚などの多くの古墳が存在する。

（天神山塚古墳）

26．朝倉薬師如来坐像 （鴨方）

（市指定有形文化財）

鴨方町六条院西朝倉の薬師堂と呼ばれる辻堂の中に安置されている高さ88.5cmの木造・彩色の薬師如来像。この仏像は円珠院から移されたものとされ、尊形は薬師如来通常の相である。一部に後補されたところもあるが、平安時代末の古様式をよく伝えた在地の仏師による室町時代後半の作といわれている。

27．円珠院石造大宝塔 （鴨方）

（市指定有形文化財）

円珠院境内の東から竜王山の斜面を100mほど上った山中に立つ284cmの花崗岩製の巨塔。単層石塔では県内では７番目の大きさとなる。細部装飾は一切省略して桃山時代の様式である彫塔を意識的に排し単純素朴であることから、近世初期にあって鎌倉時代石塔の古様式を復古的に模倣しようとした作品といえる。『備中誌』に「竜王山城主細川下野守通董より供養のため、境内に石塔を建つ」とみえ、通董が旧寺跡に寄進した宝塔といわれている。

28．三郎島（三ツ山） （寄島）

（市指定名勝）

三郎島の南西100mに、三つの小島が浮かぶ景観は一幅の絵である。角閃花崗岩の山塊からなり、約６mの間隔で規則正しく並んでいる。満潮時には三島が独立して海中に浮かび、大潮の干潮時には三郎島と陸続きとなる景勝地。かつてはそれぞれに松の木が数本ずつ生え、美しい景観をなしていたが、近年になって松が枯れ、その後も移植を試みたがうまくいかず、かつての景観が偲ばれる。

29．安倉八幡の大楠（くす） （寄島）

（市指定天然記念物）

安倉八幡神社参道の石鳥居脇にそびえる県下最大の巨樹である。樹齢620余年、目通り周囲5.2m、地上根周り9.2m、高さ20mで地上から４mのところで三枝に分かれ、東西20m、南北23mに枝を張っている。1839年（天保10）、この付近は干拓され鳴滝新開となるが、当時の海岸線を語るものとして貴重な記念物である。

30．阿弥陀如来立像（龍城院） （寄島）

（市指定有形文化財）

天台宗福井山壽福寺龍城院《慈覚大師（円仁）による838年（承和５）開基》の本尊。文化文政期頃の作。金箔木彫約115cm。座像が拝むことによって仏と一体になるといわれるのに対し立像は、積極的に衆生を救済する仏像といわれる。

31．壇像（龍城院） （寄島）

（市指定有形文化財）

江戸時代後期の作。白壇の香木に33体の観音像が彫刻され、中央に宗祖伝教大師像、最上段に一光三尊の阿弥陀像（善光寺様式）が彫刻されている。

32．法華経八巻（龍城院） （寄島）

（市指定有形文化財）

佐野紹益筆。巻物約25cm、白紙に金泥で書かれている。１行17文字、軸端は水晶になっており、1687年（貞享４）に信秀が納めたと記されている。この「法華経八巻」には、京都の豪商灰屋紹益の妻となった遊女２代目吉野大夫への深い愛と冥福の祈りが込められている。

33．福井古墳 （寄島）

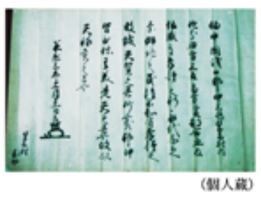
（市指定史跡）

福井山龍城院の裏、竹藪と畑を隔てて北東約100mの地点に墓地がある。その墓地西側の竹林の中に存在する南西に口を開いた古墳時代後期の小型横穴式石室墳である。長さ2.6m、幅1.45m、高さ0.7mで天上石２枚が見られる。小型ながら現存する横穴式石室の中でも原型をとどめている貴重な古墳である。

34．青佐山台場跡（あおさやまだいばあと） （寄島）

（市指定史跡）

『浅口郡誌』に「青佐山南麓に旧砲台の跡あり。ここは海防のため1863年（文久３）鴨方藩主の築きしものにして備前候茂政、領主政詮来り之を検す。砲弾やうやく三郎島付近に達せりといふ」とあって、幕末攘夷の歴史を回顧する史跡である。南面に土塁の跡が残り、砲門を据え砲身を出した凹地が2カ所ある。砲台跡からは近くに三郎島（三ツ山）を、遠くに讃予の島山を展望できる景勝地である。

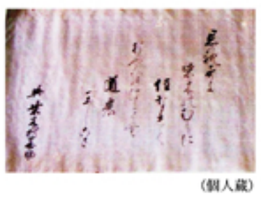


（個人蔵）

35．池田光政公の判物 （寄島）

（市指定有形文化財）

領内13孝子に選ばれた初代孝子下原甚介は1654年（承応３）岡山城の池田光政公に召され、孝養を褒賞感状と田３反畑２反を賜り、永代にわたって租税を免ぜられた。感状は下原家の納庫に大切に保存されている。初代甚助の孝養を物語る逸話として「草履と下駄」が有名である。



（個人蔵）

36．池田継政公自詠の和歌 （寄島）

曾孫甚助も初代甚助に負けぬ親孝行の人であった。その孝養は「孝行の鏡」などの逸話で世に知られている。藩主池田継政公から1745年（延享２）に表彰され、感状と倉米を賜った。さらに後日、絹本に書かれた自詠自筆の和歌「忘れずに柴木のむらに住みなれておやをはこくむ道のかしこさ」を賜っている。

37．阿弥陀如来坐像 （寄島）

（市指定有形文化財）

寄島町鍋にある阿弥陀堂に納められている。1558年（永禄元）藤沢兵部大夫秀清がこの像を刻ましたもので、寄島町最古のものである。現在完全に管理されているが、高野山への売却交渉もあったときく。

38．大浦神社競馬神事 （寄島）

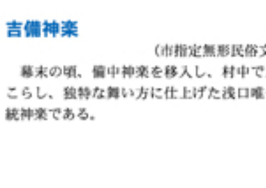
（市指定無形民俗文化財）

大浦神社秋祭の神事。戦国時代の領主、細川公がこの地に社殿を奉遷した際、神馬を式列に参加させたのが発端で、その後馬２頭による競馬の形となって現在に至っている。市内では他に例をみない珍しい競馬神事である。

39．アッケシソウ自生地 （寄島）

（市指定天然記念物）

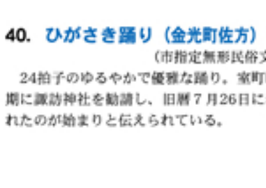
環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている海浜植物アッケシソウが、平成15年末に寄島干拓地で確認された。本州で唯一自生するアッケシソウを平成16年２月旧寄島町が天然記念物に指定。非常に貴重な天然記念物であることから、現在「アッケシソウを守る会」によって環境整備や生育観察等の保護活動が行われている。



吉備神楽 （金光）

（市指定無形民俗文化財）

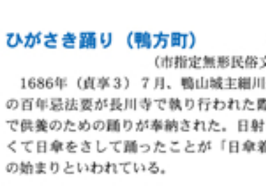
幕末の頃、備中神楽を移入し、村中で工夫をこらし、独特な舞い方に仕上げた浅口唯一の伝統神楽である。



40．ひがさき踊り（金光町佐方） （金光）

（市指定無形民俗文化財）

24拍子のゆるやかで優雅な踊り。室町時代末期に諏訪神社を勧請し、旧暦７月26日に奉納されたのが始まりと伝えられている。



ひがさき踊り（鴨方町） （鴨方）

（市指定無形民俗文化財）

1686年（貞享３）７月、鴨山城主細川通董公の百年忌法要が長川寺で執り行われた際、境内で供養のための踊りが奉納された。日射しが強くて日傘をさして踊ったことが「日傘着踊り」の始まりといわれている。

表紙写真　上段　三郎島（三ツ山）……〈寄島〉　下段　左：寂光院庭園 ……〈金光〉
中：旧高戸家住宅 ……〈鴨方〉
右：鬼の手形岩 ……〈金光〉

〈編集・発行〉 浅口市教育委員会

〒719-0243　岡山県浅口市鴨方町鴨方2244-2
TEL　0865-44-7055　FAX　0865-44-7602
E-mail bunkashinko@city.asakuchi.lg.jp

※文化財等についてのお問い合わせは、文化振興課へお願いします。